

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第 1 号

令和5年7月5日
横浜市小学校教育研究会
会長 徳江 武司
横浜市小学校社会科研究会
会長 加藤 和之
同 学年部長 本間 宏志

【提案日時】

6月 7日 (水)

提案 八木 浩司 先生 (南吉田小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 本間 宏志 先生 (生麦小)

記録 下島 孝志 先生 (瀬ヶ崎小)

1 提案内容 単元名

単元名「水道水はどこから ～水道局の取組と自分たちができること～」

2 提案者より

視点①：子どもの問いを大切にする。

- ・導入で水比べをした。(誰もが「問い」をもてる工夫)
→相模川の水を汲んできて、水道水と一緒に提示した。
- ・単元の修正を行った。
→抽出児の資料の読み取りが難しかったため、水系を白地図に書き直して提示した。
- ・抽出児のY児のふり返りの問いから、1時間授業を追加した。
- ・項目を入れた学習プリントを渡して、抽出児が問いを整理しやすくした。

視点②：個の学びから、協働的に学びを深める。

- ・「座席表」を使って、個の学びが繋げられるようにした。
- ・授業記録、補助資料を使って、個の学びから協働的学びにつなげた。

3 協議会 (今回、参会者が視点①と視点②を選んでグループを作り、協議した。)

視点①グループ

- ・単元の修正について質問→第7時の結論が出たか。
→資料の読み取りに難しさがあったので、1時間追加した。→結論が出た。
- ・本気の学習問題の成立について違和感があった。
→本時の資料提示は唐突感があったのではないか。
→第7時の結論から、本気の学習問題の成立の資料に違和感を感じた。
- ・資料作りについて →簡潔化した資料は良いが、高学年で通用するのか？資料のレベルについて考える必要がある。(簡略化した資料を先に見せ、必要に応じて難しい資料を見せてもよかったのではないか。)

- 単元計画で、内容をしっかりフォーカスしておくことが大切。そして、児童の考えも予想しておく必要がある。

視点②グループ

- 抽出児を生かした展開になっていた。
- 座席表のみとりがよかった。
 - 意図的に指名をしながら、個の学びを全体化して話し合いに生かしているのが良かった。個の学びを、意図的に指名することで協働な学びに導いていた。
- 児童が困ったときに、先生から適切に資料を提示がなされていた。

<講師の先生より>

☆ 西富岡小学校 黒田 由希子校長先生

- 授業後の児童との対話や、休み時間の調査活動等、隙間の時間の活用がなされていた、提案だった。「何を」「どのようにするのか」という「問い」が「主体」につながっていく。
- 第7時の前提があってからの第8時なのだが...、本気の学習問題の成立は難しかったと思う。児童の中に、落ちていたのかどうか。
- 振り返りについて、子ども自身に「成長を実感する振り返り」を書かせるのは難しいと思う。振り返りに、教師の価値付けをしていく必要がある。

☆ 元石川小学校 野間 義晴校長先生

- どんな「事実」、どんな「教材」が必要なのか考える必要がある提案だった。
 - 「実感に訴える事実」、「教材にひと手間を加える」ことも大切。
(今日の提案だと、実感に訴える事実として、相模川の実際の水。教材にひと手間を加えた、白地図の水系地図など。)
- 単元のつながりが難しい。
 - だからこそ、「次に何をやるか」という、1時間1時間の最後の「抜け」が大切。
 - 見通しをもつ、もっていくことが「主体的」になるために大切である。
- 自分事に落としていくには…
 - 振り返りのなかでさせていくことが多いが、本時の中でもポイントがある。授業記録の中にその様子が現れている。

文責 佐藤 安世 (北綱島小学校)